



# 秋葉神社

秋葉神社は、静岡県浜松市天竜区春野町領家(旧周智郡春野町)の秋葉山頂にあって、近世末まで秋葉山三尺坊大権現が祀られており、秋葉信仰はこれに対する信仰です。三尺坊は観音菩薩の応化身で信州に生まれ、越後の蔵王堂に奉仕する十二坊の一つでしたが、大同4年(809)不動三昧の法を修し、火災に包まれて、手に剣索を持ち肩に両翼を付け、白狐に乗って秋葉山に飛来し鎮守になったといわれています。しかし一般に刀難・火難・水難、特に火防の豊饒あらたかな天狗として有名です。三尺坊は近世には、朝廷・公卿・武将から庶民に及ぶ幅広い層から信仰されましたが、特に庶民の間では愛宕と並ぶ火防の神としてあがめられ、東海道から関東を中心として数多くの講が結成され、三尺坊大権現の分社や秋葉常夜灯が作られました。

「秋葉の祭り」は現在12月15日・16日に行われ、全国から多数の信者が集まります。明治6年(1873)神仏分離により八合目にあった秋葉寺は廃せられ秋葉神社となりました。(長谷村誌より)

**秋葉信仰が盛んになる前**  
秋葉信仰が盛んになる以前も南北朝時代は、宗良親王など南朝方の軍勢が戦略路として利用し、戦国時代には武田信玄が遠州攻略のために大軍を南下させた軍用路でもありました。



曾山沢から駒ヶ根市の中沢へ通じる道がありました。現在も上部は確認できます。



従是北高遠領の杭

**杉島地区古老の秋葉神社代参の話(大正11年)**  
「代参の時は市野瀬の代参の人と8人で行った。12月13日午前3時頃市野瀬を出発、上村に着いたのが午後6時。翌14日上村を発ち青崩峠を越えて、水窪へ午後5時半に到着して一泊。翌15日は水窪より西の渡りを経て秋葉山着は午後4時頃。社務所で奉納金を納めて宿泊所へ。翌16日は4人ずつ二手に分かれ、一方は伊勢参り、一方は東京見物をして帰った。旅費は東京見物が4円90銭だった。」(長谷村誌より)

**中尾行き倒れ人の供養塔**  
中尾丸山地籍の旧街道で、行き倒れ亡くなった人を気の毒に思った付近の住民が供養塔を建てたといわれています。

行き倒れ人の供養塔

白衣観音

街道の面影が残る道

「秋葉街道宿場町」市野瀬



市野瀬宿



道標 右なかざわ 左あきは

**栗沢の道標**  
かつて栗沢川と曾山沢の出会いから中沢へ通じる道の分岐点に建っていました。

## 児玉

旧秋葉街道の風情が色濃く残っています。とても素晴らしいところ。

滑りに注意! 道が細いので充分に注意してください。

丸太橋を渡る。

災害箇所につき迂回路を充分気をつけて通ってください。

**三羽根**  
旧街道は黒河内寺室地籍から大きな尾根を超え黒川を渡り中尾へと続きますが、この尾根のことを三羽根といい、尾根から北側を「ひかけ三羽根」、南側を「ひなた三羽根」といいました。この三羽根峠は御殿場ともいわれ、旅人が休むにはよい場所であったようです。現在は山砂利の採取場とその作業道となっていますので、中に入るには許可が必要です。「ひなた三羽根」の中腹の大きな松の根元に明和7年庚寅年(1770)と記された馬頭観音が建っています。この付近は旧街道の面影が大変色濃く残っています。

## 黒河内・中尾



中沢道への分岐 かつてここから猿橋を渡り中沢へ抜ける道がありました。

この中は許可なく入れません。

進入できません。

かつて黒川を渡る橋がありました。今はありません。

旧秋葉街道の風情が色濃く残っています。

降り口が危険! 侵入禁止

今も道跡がくっきり残っています。

通り抜けできません。

**中尾歌舞伎**  
明和4年(1767)旅芸人が来て、上中尾の山の神様の前で演じたのが始まりといわれています。平成8年に中尾座が完成し、柿葺落に歌舞伎役者の十二代目市川團十郎を呼んで話題となりました。

## 市野瀬



**市野瀬宿**  
市野瀬には駄菓子屋をはじめ雑貨屋・酒屋などがあり、旅館もあって宿場らしい様相が昭和30年頃までは残っていました。分抗峠越えの市野瀬～鹿塩間は宿がなかったため重要な宿場でした。

## 大曲



栗沢川沿いの秋葉街道は昭和36年の集中豪雨によって流失しました。

ここから林道に入ります。

## 掘り抜き

市野瀬集落内に栗沢川が流れていたため洪水が絶えませんでした。そこで、天保14年(1843年)名主馬場孫左衛門が藩の許可を得て、栗沢川を掘抜いたことでその後集落内は洪水がなくなりました。掘り抜きにはかつて「左杉島道 右秋葉道」と刻まれた道標がありました。昭和36年の集中豪雨による災害(36災害)で流失してしまいました。

高遠藩が領内の境界に「従是北高遠領」と書いた境界杭を建てたもの。昭和49年何かが持ち去ってしまったため代替のものがあります。



## 分抗峠

国道152号 至大鹿村